



M009-4
2023/06/12



地絡方向継電装置 取扱説明書

LDG-71 LDG-71K LDG-71-DC
LDG-73 LDG-73K LDG-73-DC
LDG-73V LDG-73V-DC
LVG-7 LVG-7-DC
LVG-7V LVG-7V-DC



光商工株式会社

地絡方向継電装置の安全上のご注意

このたびは、地絡方向継電装置をお買い上げいただきありがとうございました。
地絡方向継電装置を取り扱われる前に、注意書をよくお読みの上で正しく取り扱われますようお願いいたします。
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。



安全上のご注意

- 濡れた手でさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 制御電源は必要な時以外は切らないでください。
- 充電端子部に触れないでください。感電します。
- 不用意に地絡方向継電器(LDG)の試験/復帰スイッチ、または地絡電圧継電器(LVG)の試験スイッチを操作しないでください。遮断器に接続してある場合は停電します。
- 地絡方向継電装置のまわりに使用上及び点検上の障害になるものを置かないでください。
- 直射日光が当たるところでは銘板が変色、変形するおそれがあります。
- 必要な時以外、ユニットを抜かないでください。
抜く場合は制御電源を切り、零相変流器のk、l端子を短絡してください。



施工上のご注意

- 誤った配線をするると地絡方向継電装置を損傷し出火するおそれがあります。
- 極性にご注意ください。誤動作、不動作のおそれがあります。
- 制御電源の誤配線にご注意ください。(例. 100V 端子に 200V を印加しないでください)
DC 電源の機種は、P1 端子が＋、P2 端子が－になります。
- 配線は必ず制御電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 端子部外に電線の芯線が露出しないようにしてください。故障のおそれがあります。
- 前蓋は落として無理に衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。
- 地絡方向継電器(LDG)、地絡電圧継電器(LVG)、零相変流器(ZCT)、零相蓄電器(ZPC-9B)、零相電圧変換器(CF-107V・107AV)間の各配線(信号線)には、2 芯シールド線、またはツイストペア線をご使用ください。配線の長さはなるべく短くしてください。
- 信号線が大電流と並行するときは、金属管に入れるなどして電磁遮蔽をしてください。
- 接地方法については、ZPC-9B、または CF-107V・107AV の y2 端子を必ず 1 点接地(D 種接地)してください。
ZPC-9B の E 端子は必ず A 種接地に接続してください。
- 分割形 ZCT はシールド付ケーブル専用形です。
- ZPC-9B を使用する際は、高圧側絶縁電線の被覆を取り除いて接続してください。
- ZPC-9B の付属電線 CF-89 は必ずそのままでご使用ください。切りつめることや他の電線で延長することはしないでください。また、CF-89 のたるんだ部分は、高圧部より 70mm 以上離して固定してください。
- ZPC-9B の碍子(EPD-2A)から変成器(CF-71A)への配線はマーカーをご確認の上、行ってください。
- 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動衝撃など異常環境に設置しないでください。
- 感度試験用として盤の表面に ZCT の試験用 kt-lt 端子、及び ZPC-9B の T-E 端子を設けてください。
- 空き端子には、配線しないでください。
- 低圧側耐電圧試験時、ZPC-9B、または CF-107V・107AV の y2 端子の接地は浮かしてください。



点検上のご注意

- LDG の Z1-Z2、Y1-Y2、M-N の端子、及び LVG の Y1-Y2、M-N の端子には直接試験電圧・試験電流を印加しないでください。
- 月に 1 回程度、LDG の試験/復帰スイッチを試験側へ倒し、または LVG の試験スイッチを試験側へ倒して、動作の確認をすることをおすすめします。遮断器に接続してある場合は遮断しますのでご注意ください。
- 清掃は柔らかい布で乾拭きしてください。
- 活線状態で感度試験を行うと動作感度に誤差を生じるおそれがあります。

目 次

1. 仕 様	
1-1. 地絡方向継電器、地絡電圧継電器 (AC 電源)	4
1-2. 地絡方向継電器、地絡電圧継電器 (DC 電源)	5
2. 構 成	6
3. 操作部	
3-1. 前蓋の開け方、及び閉め方	7
3-2. ユニットの抜き方	7
3-3. 地絡方向継電器 LDG-71・71K, LDG-71-DC	8
3-4. 地絡方向継電器 LDG-73・73V・73K, LDG-73・73V-DC	9
3-5. 地絡電圧継電器 LVG-7・7V, LVG-7・7V-DC	10
4. 協 調	
4-1. 時限(動作時間)協調	11
4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調	11
5. 試 験	
5-1. 試験時の注意事項	11
5-2. 試験方法	12
6. 試験回路例	
6-1. LDG-73とZPC-9B の場合	12
6-2. LDG-73, LDG-71 とZPC-9B の場合	13
6-3. LVG-7V, LDG-71とEVT の場合	13
7. 良否の判定	
7-1. 零相電流分と動作時間	14
7-2. 零相電圧分	14
7-3. 動作位相角	14
8. 更新推奨時期	15
9. 継電器の動作	
9-1. LDG が動作した時	15
9-2. 雷撃について	15
9-3. ZCT の負荷側の EVT または GT について	15
9-4. 動作電圧表示灯(赤)が点灯した時.....	15
9-5. 動作電流表示灯(赤)が点灯した時	15
10. 外部接続図例	
10-1. 電圧引き外し(LDG-73とZPC-9B の場合)	16
10-2. 電流引き外し(LDG-73KとZPC-9B の場合)	17
10-3. 多分岐回路(LDG-73,LDG-71,LDG-71KとZPC-9B の場合)	18
10-4. 多分岐回路(LVG-7,LDG-71,LDG-71KとZPC-9B の場合)	19
10-5. 特別高圧受電二次側(LVG-7V,LDG-71とCF-107VまたはCF-107AV)	20
11. ブロック図	
11-1. LDG-73・73V, LDG-71	21
11-2. LDG-73K, LDG-71K	22
11-3. LDG-73・73V-DC, LDG-71-DC	23
11-4. LVG-7・7V, LVG-7・7V-DC	24
12. 外形図	25
13. 裏面端子配列図 (LDG-71K, LDG-73K)	25

1. 仕 様

1-1. 地絡方向継電器、地絡電圧継電器 (AC 電源)

項目		形式	LDG-71	LDG-71K	LDG-73・73V	LDG-73K	LVG-7・7V	
定 格	動 作 電 流 整 定 値	0.1-0.2-0.4-0.6-1.0(A)					—	
	動 作 電 圧 整 定 値 (完 全 地 絡 電 圧 の %)	—			2.5-5-7.5-10-15 (%)		※	
	動 作 時 間 整 定 値	0.05-0.2-0.5-0.8-1.0(s)						
	制 御 電 圧	AC 110V 使用電圧範囲 AC90～120V						
	周 波 数	50/60Hz						
	使 用 温 度 範 囲	-20℃～+60℃						
	消 費 電 力	常 時	AC110V 4.4VA					
	動 作 時	AC110V 5.5VA						
性 能	動 作 値 誤 差	I _o	±10%				—	
		V _o	—			±25%		
	動 作 位 相 誤 差	V _o =整定電圧値の 150%電圧、I _o =整定電流値の 1000%電流 (進み) 130° ±25° (遅れ) 35° ±25° 14 ページ参照					—	
	動 作 時 間 誤 差	試験電流 整定値(s)	整定電流値に対する %			試験電圧 整定値(s)	整定電圧値 に対する %	
			130%		400%		150%	
		0.05	0.1 以下		0.1 以下	0.05	0.1 以下	
		0.2	0.1～0.3		0.1～0.2	0.2	0.1～0.2	
		0.5	0.4～0.65		0.4～0.6	0.5	0.4～0.6	
		0.8	0.7～0.95		0.7～0.9	0.8	0.7～0.9	
		1.0	0.95～1.15		0.95～1.1	1.0	0.95～1.1	
	制 御 電 圧 の 影 響	AC90～120V において (標準状態における実測値に対して) 動作電流 ±5% 動作位相 ±5° 動作電圧 ±10% 動作時間 ±10%(0.05s は 0.1s 以下)						
	温 度 の 影 響	-20℃～+60℃において (標準状態における実測値に対して) 動作電流 ±10% 動作位相 ±15° 動作電圧 ±15% 動作時間 ±10%(0.05s は 0.1s 以下)						
	過 地 絡 耐 量	AC 120A 連続					—	
	絶 縁 抵 抗	継電器の電気回路一括と外箱間 DC500V メガーにて 20MΩ 以上						
	商 用 周 波 耐 電 圧	継電器の電気回路一括と外箱間 AC2000V 1 分間						
	振 動	複振幅 0.4mm 16.7Hz 前後、左右、上下、各方向 600s						
	LDG-71 シリーズ接続台数	—			30 台			
機 能	試 験 方 式	試験/復帰スイッチ(兼用)					試験スイッチ	
	動 作 表 示	表 示 方 式	マグサイン表示(動作時 橙) I _o ,V _o の動作表示 発光ダイオード表示(赤)					発光ダイオード表示(赤)
		復 帰 方 式	マグサイン表示 手動復帰方式(試験/復帰スイッチ(兼用)) I _o ,V _o の動作表示 自動復帰方式					自動復帰方式
	出 力 接 点	復 帰 方 式	自動/手動復帰切替 (手動復帰設定時は試験/復帰スイッチ(兼用))					自動復帰方式
		構 成	電圧引き外し用及び警報用 2a					—
			電流引き外し用 引き外し電流電源端子 S1,S2 (LDG-71K・73K) トリップ端子 T1,T2					
			変流器接続端子 O1,O2					
		開 閉 容 量	電圧引き外し用及び警報用 AC110V 5A(cos φ=1)		2A(cos φ=0.4)			
			DC100V 0.6A(L/R=1ms)		0.2A(L/R=7ms)			
	閉 路 容 量	電流引き外し用 AC110V 5A(cos φ=0.4)(71K・73K)					—	
電圧引き外し用及び警報用 DC140V 5A 0.2s (L/R=7ms)					—			
外 装 色	マンセル記号 N1.5							
質 量	約 1.0kg		約 1.4kg		約 1.0kg	約 1.4kg	約 1.0kg	

1-2. 地絡方向継電器、地絡電圧継電器 (DC 電源)

項目		形式	LDG-71-DC	LDG-73・73V-DC	LVG-7・7V-DC	
定 格	動 作 電 流 整 定 値	0.1-0.2-0.4-0.6-1.0(A)			—	
	動 作 電 圧 整 定 値 (完 全 地 絡 電 圧 の %)	—		2.5-5-7.5-10-15 (%)	※	
	動 作 時 間 整 定 値	0.05-0.2-0.5-0.8-1.0(s)				
	制 御 電 圧	DC 100V 使用電圧範囲 DC80～143V				
	使 用 温 度 範 囲	-20℃～+60℃				
	消 費 電 力	常 時	DC100V 2W			
	動 作 時	DC100V 3W				
性 能	動作値誤差	I _o	±10%			—
		V _o	—		±25%	
	動作位相誤差	V _o =整定電圧値の150%電圧、I _o =整定電流値の1000%電流(進み) 130° ±25° (遅れ) 35° ±25° 14 ページ参照				—
	動作時間誤差	試験電流 整定値(s)	整定電流値に対する %		試験電圧 整定値(s)	整定電圧値 に対する %
			130%	400%		150%
		0.05	0.1 以下	0.1 以下	0.05	0.1 以下
		0.2	0.1～0.3	0.1～0.2	0.2	0.1～0.2
		0.5	0.4～0.65	0.4～0.6	0.5	0.4～0.6
		0.8	0.7～0.95	0.7～0.9	0.8	0.7～0.9
		1.0	0.95～1.15	0.95～1.1	1.0	0.95～1.1
	制 御 電 圧 の 影 響	DC80～143V において(標準状態における実測値に対して) 動作電流 ±5% 動作位相 ±5° 動作電圧 ±10% 動作時間 ±10%(0.05s は 0.1s 以下)				
	温 度 の 影 響	-20℃～+60℃において(標準状態における実測値に対して) 動作電流 ±10% 動作位相 ±15° 動作電圧 ±15% 動作時間 ±10%(0.05s は 0.1s 以下)				
	過 地 絡 耐 量	AC 120A 連続				—
	絶 縁 抵 抗	継電器の電気回路一括と外箱間 DC500V メガーにて 20MΩ 以上				
	商 用 周 波 耐 電 圧	継電器の電気回路一括と外箱間 AC2000V 1 分間				
振 動	複振幅 0.4mm 16.7Hz 前後、左右、上下、各方向 600s					
LDG-71 シリーズ接続台数	—		30 台			
機 能	試 験 方 式	試験/復帰スイッチ(兼用)				試験スイッチ
	電 源 表 示	発光ダイオード表示(緑)				
	動作表示	表示方式	マグサイン表示(動作時 橙) I _o ,V _o の動作表示 発光ダイオード表示(赤)			発光ダイオード表示(赤)
		復帰方式	マグサイン表示 手動復帰方式 (試験/復帰スイッチ(兼用)) I _o ,V _o の動作表示 自動復帰方式			自動復帰方式
	出力接点	復帰方式	自動/手動復帰切替 (手動復帰設定時は試験/復帰スイッチ(兼用))			自動復帰方式
		構 成	電圧引き外し用及び警報用 2a			
		開 閉 容 量	電圧引き外し用及び警報用 AC110V 5A(cos φ=1) 2A(cos φ=0.4) DC100V 0.6A(L/R=1ms) 0.2A(L/R=7ms)			
閉 路 容 量		電圧引き外し用及び警報用 DC140V 5A 0.2s (L/R=7ms)				
外 装	色	マンセル記号 N1.5				
質 量		約 1.3kg				

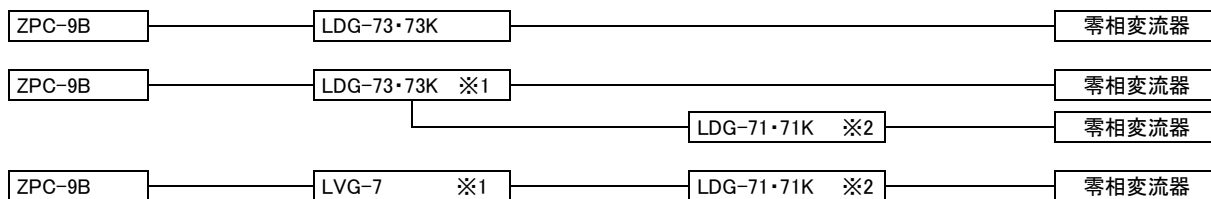
※ 3.3kV 電路用の動作電圧整定値は 5-10-15-20-30 (%)です。また、組み合わせの ZPC は ZPC-9BS:3.3kV 用です。

※ LDG-71 シリーズは動作電圧整定値がないため、6.6/3.3kV 電路共用です。

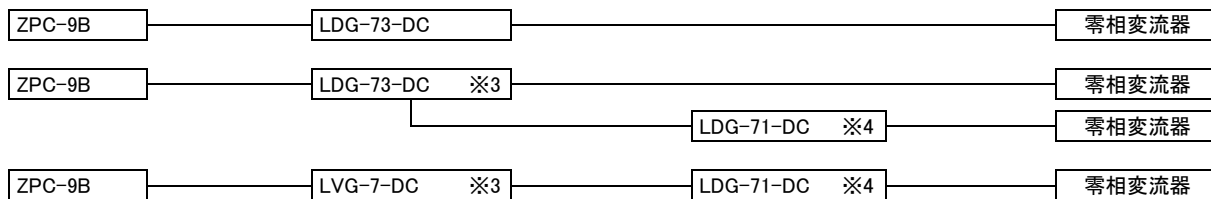
2. 構成

普通高圧の組み合わせ例

(AC 電源の場合)

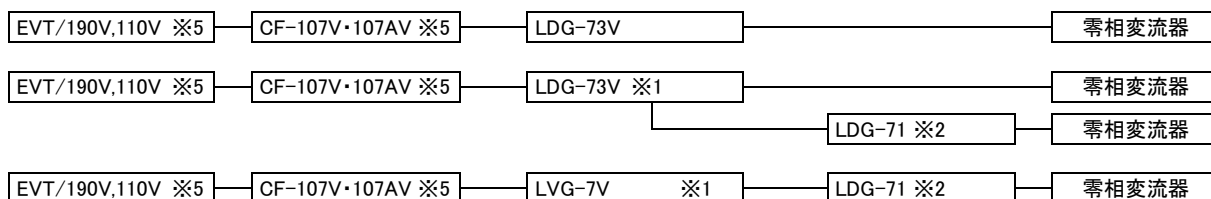


(DC 電源の場合)

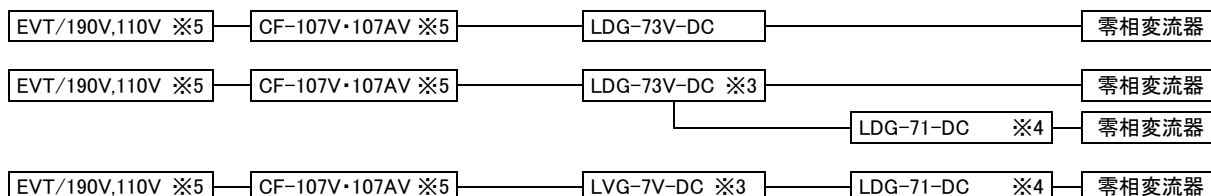


特別高圧二次側の組み合わせ例

(AC 電源の場合)



(DC 電源の場合)



※1 LDG-21・21K・81との組み合わせもできます。※2 LDG-23・23K・83・83V, LVG-3C・8・8Vとの組み合わせもできます。

※3 LDG-21-DC1, LDG-81-DC との組み合わせもできます。

※4 LDG-23-DC1, LDG-83・83V-DC, LVG-3C-DC1, LVG-8・8V-DC との組み合わせもできます。

※5 EVT/190V の場合は CF-107V との組み合わせ、EVT/110V の場合は CF-107AV との組み合わせになります。

- LDG-11 シリーズ、LVG-2 シリーズ及び零相蓄電器 ZPC-1 シリーズとは組み合わせができません。
- ZPC-9B と LDG-□V シリーズと LVG-□V シリーズは組み合わせができません。
- CF-107V・AV と LDG-□シリーズと LVG-□シリーズは組み合わせができません。必ず V シリーズをご使用ください。

地絡方向継電器 LDG-73 シリーズ (LDG-73, LDG-73V, LDG-73K, LDG-73-DC, LDG-73V-DC)

零相電圧 (V_o) 及び零相電流 (I_o) を入力することができ、一般的には1回路用として使用されます。パルス波形に整形された零相電圧の位相信号は、M,N 端子を利用して LDG-71 シリーズに分配することができます。このとき LDG-71 シリーズを最大 30 台まで接続することができます。

地絡方向継電器 LDG-71 シリーズ (LDG-71, LDG-71K, LDG-71-DC)

零相電流 (I_o) のみを入力し、零相電圧の位相信号は LDG-73 シリーズ、または LVG-7 シリーズから M,N 端子を介して入力されます。主に分岐回路用として使用されます。

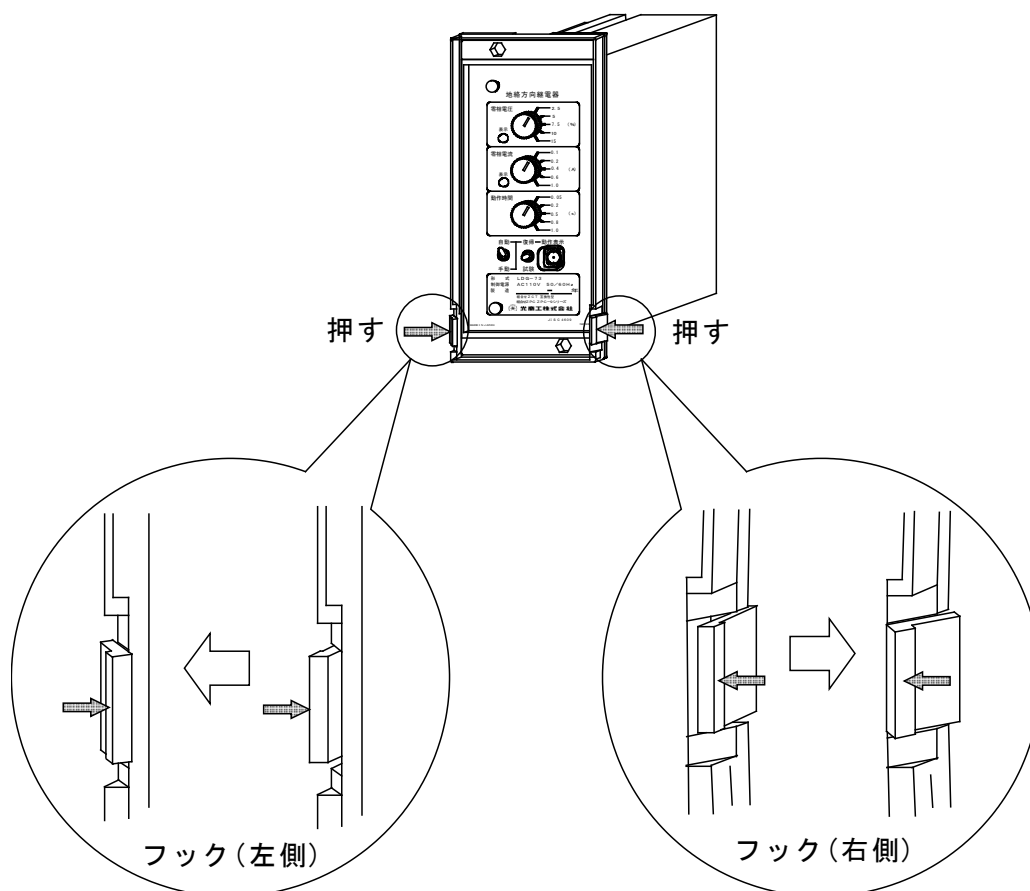
地絡電圧継電器 LVG-7 シリーズ (LVG-7, LVG-7V, LVG-7-DC, LVG-7V-DC)

零相電圧 (V_o) のみを入力します。パルス波形に整形された零相電圧の位相信号は、M,N 端子を利用して LDG-71 シリーズに分配することができます。このとき LDG-71 シリーズを最大 30 台まで接続することができます。

3. 操 作 部

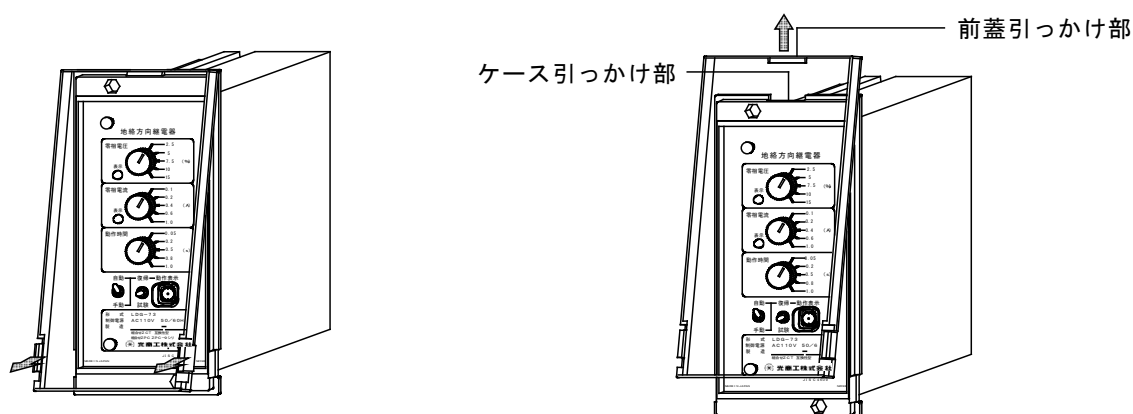
3-1. 前蓋の開け方、及び閉め方

- ① 前蓋の下側の両端にあるフックを矢印の方向に押して、フックを外します。



- ② フックを外した状態で、前蓋の下側を少し手前に引きます。

- ③ 前蓋を上側にずらして、前蓋をケースの「引っかけ部」から外します。



前蓋を閉める場合は「前蓋の開け方」の逆の手順で、前蓋をケースの「引っかけ部」に掛けたあと、前蓋の下側をケースに押しつけてフックを掛け、固定します。

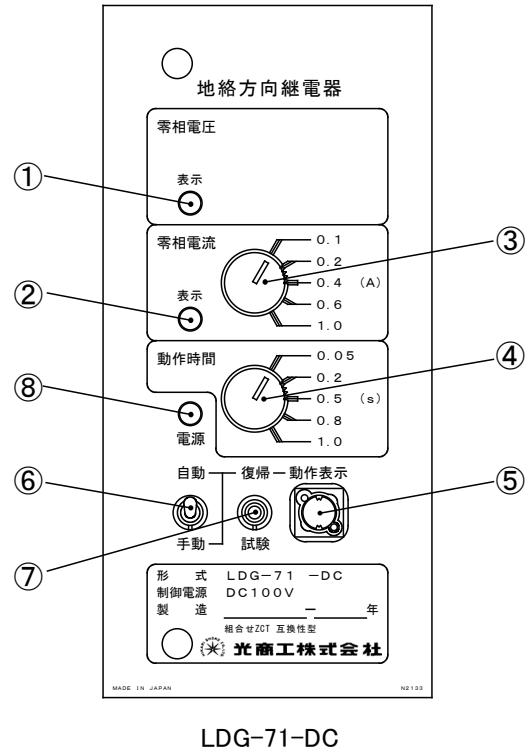
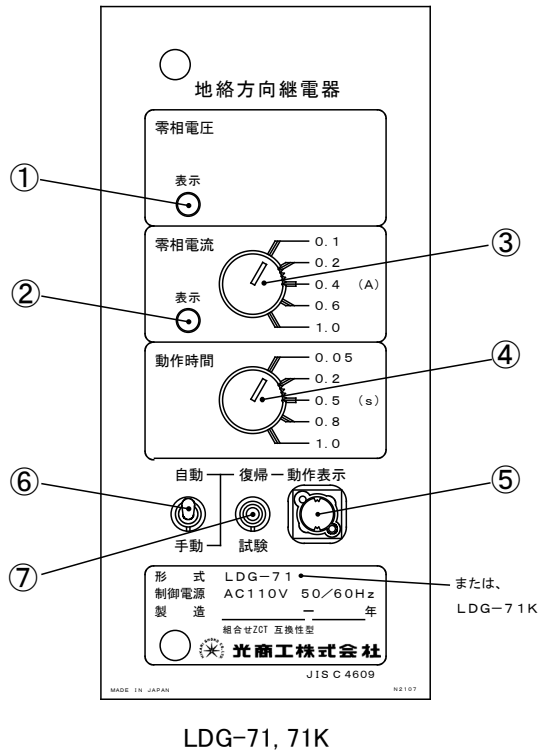
3-2. ユニットの抜き方

前蓋を取り外し、パネル上下のツマミを上下に軽くゆらしながら引き抜いてください。

抜く場合は制御電源を切り、零相変流器のk, l端子を短絡してください。

但し、丸胴ケースアダプター(形式 CF-156)を使用して取り付けの場合は、ユニットの引き抜きはできません。

3-3. 地絡方向継電器 LDG-71・71K, LDG-71-DC



※ 動作電圧整定値がないため、6.6/3.3kV 電路共用です。

①動作電圧表示灯(赤)

零相電圧入力が動作電圧整定値を超えると点灯し、整定値未満になると消灯します。
点灯した場合は、9-4. 動作電圧表示灯(赤)が点灯した時(15 ページ)を参考にしてください。

②動作電流表示灯(赤)

零相電流入力が動作電流整定値を超えると点灯し、整定値未満になると消灯します。
点灯した場合は、9-5. 動作電流表示灯(赤)が点灯した時(15 ページ)を参考にしてください。

③動作電流整定スイッチ

動作電流整定値を切り替えます。整定については、4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調(11 ページ)を参考にしてください。

④動作時間整定スイッチ

動作時間整定値を切り替えます。整定については、4-1. 時限(動作時間)協調(11 ページ)を参考にしてください。

⑤動作表示器(動作時 橙)

継電器が動作すると、動作表示器が動作(黒から橙へ反転)します。動作表示器は手動復帰方式なので試験/復帰スイッチを復帰側へ倒すと復帰(橙から黒へ反転)します。動作表示器は制御電源が入っているときだけ反転します。

⑥自動/手動復帰切替スイッチ

継電器が動作すると動作表示器及び出力接点が動作します。

- 自動復帰設定時は、地絡が解消すると出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。
- 手動復帰設定時は、地絡が解消しても動作表示器及び出力接点は復帰しません。

⑦試験/復帰スイッチ

○ 動作時間整定値以上、試験側へ倒し続けると、動作表示器及び出力接点が動作します。

- ・自動復帰設定時は、試験/復帰スイッチから手を離すと同時に出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。
- ・手動復帰設定時は、手を離しても動作表示器及び出力接点は復帰しません。

※ 遮断器に接続してある場合は、継電器の動作と連動して遮断しますので不用意に操作しないでください。

○ 復帰側へ倒すと、動作表示器及び手動復帰設定時の出力接点が復帰します。

- ・継電器が動作し、制御電源が切れた場合は復帰方式に関わらず出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。制御電源が復旧してから復帰側へ倒すと動作表示器は復帰します。

- ・継電器が動作しても制御電源が切れなかった場合、自動復帰設定時は地絡が解消すると出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しませんので、復帰側へ倒すと復帰します。

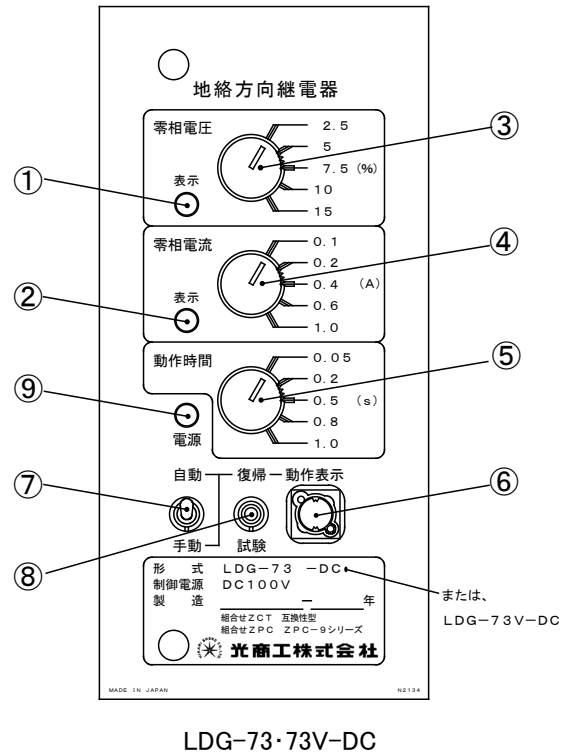
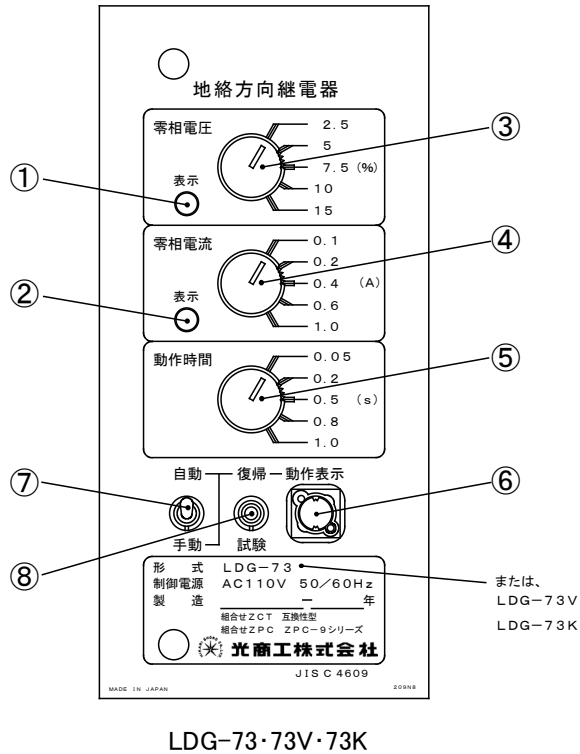
手動復帰設定時は地絡が解消しても動作表示器及び出力接点は復帰しませんので、復帰側へ倒すと動作表示器及び出力接点が復帰します。

- ・制御電源が入った状態で復帰側へ倒しても復帰できない場合は地絡が継続している可能性があります。

⑧電源表示灯(緑)

制御電源が入ると点灯します。

3-4. 地絡方向継電器 LDG-73・73V・73K, LDG-73・73V-DC



※ 3.3kV 電路用の動作電圧整定値は 5-10-15-20-30 (%)です。(ZPC 使用時)

①動作電圧表示灯(赤)

零相電圧入力が動作電圧整定値を超えると点灯し、整定値未満になると消灯します。
点灯した場合は、9-4. 動作電圧表示灯(赤)が点灯した時(15 ページ)を参考にしてください。

②動作電流表示灯(赤)

零相電流入力が動作電流整定値を超えると点灯し、整定値未満になると消灯します。
点灯した場合は、9-5. 動作電流表示灯(赤)が点灯した時(15 ページ)を参考にしてください。

③動作電圧整定スイッチ

動作電圧整定値を切り替えます。整定については、4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調(11 ページ)を参考にしてください。

④動作電流整定スイッチ

動作電流整定値を切り替えます。整定については、4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調(11 ページ)を参考にしてください。

⑤動作時間整定スイッチ

動作時間整定値を切り替えます。整定については、4-1. 時限(動作時間)協調(11 ページ)を参考にしてください。

⑥動作表示器(動作時 橙)

継電器が動作すると、動作表示器が動作(黒から橙へ反転)します。動作表示器は手動復帰方式なので試験/復帰スイッチを復帰側へ倒すと復帰(橙から黒へ反転)します。動作表示器は制御電源が入っているときだけ反転します。

⑦自動/手動復帰切替スイッチ

継電器が動作すると動作表示器及び出力接点が動作します。

- 自動復帰設定時は、地絡が解消すると出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。

- 手動復帰設定時は、地絡が解消しても動作表示器及び出力接点は復帰しません。

⑧試験/復帰スイッチ

- 動作時間整定値以上、試験側へ倒し続けると、動作表示器及び出力接点が動作します。

・自動復帰設定時は、試験/復帰スイッチから手を離すと同時に出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。

・手動復帰設定時は、手を離しても動作表示器及び出力接点は復帰しません。

※ 遮断器に接続してある場合は、継電器の動作と連動して遮断しますので不用意に操作しないでください。

- 復帰側へ倒すと、動作表示器及び手動復帰設定時の出力接点が復帰します。

・継電器が動作し、制御電源が切れた場合は復帰方式に関わらず出力接点は復帰しますが、動作表示器は復帰しません。
制御電源が復旧してから復帰側へ倒すと動作表示器は復帰します。

・継電器が動作しても制御電源が切れなかった場合、自動復帰設定時は地絡が解消すると出力接点は復帰しますが動作表示器は復帰しませんので、復帰側へ倒すと復帰します。

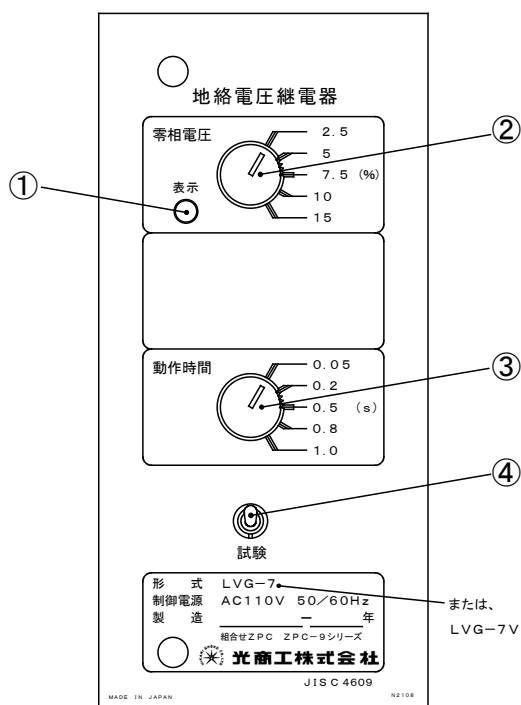
手動復帰設定時は地絡が解消しても動作表示器及び出力接点は復帰しませんので、復帰側へ倒すと動作表示器及び出力接点が復帰します。

・制御電源が入った状態で復帰側へ倒しても復帰できない場合は地絡が継続している可能性があります。

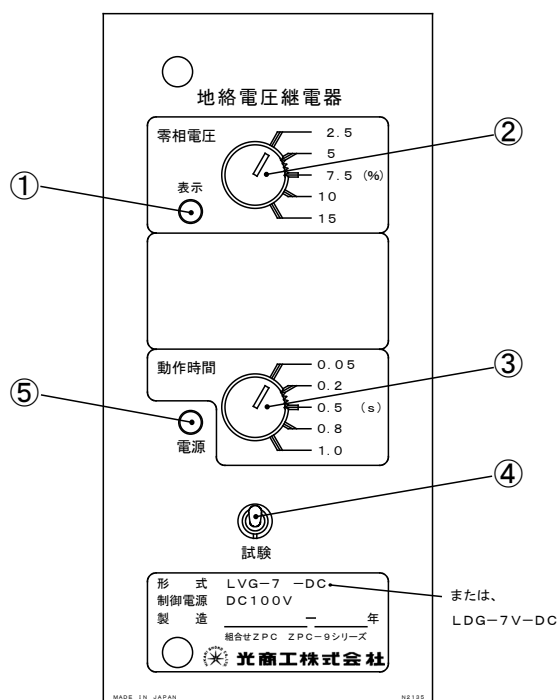
⑨電源表示灯(緑)

制御電源が入ると点灯します。

3-5. 地絡電圧継電器 LVG-7・7V、LVG-7・7V-DC



LVG-7・7V



LVG-7・7V-DC

※ 3.3kV 電路用の動作電圧整定値は5-10-15-20-30 (%)です。(ZPC 使用時)

①動作電圧表示灯(赤)

零相電圧入力が動作電圧整定値を超えると点灯し、整定値未満になると消灯します。
点灯した場合は、9-4. 動作電圧表示灯(赤)が点灯した時(15 ページ)を参考にしてください。

②動作電圧整定スイッチ

動作電圧整定値を切り替えます。
整定については、4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調(11 ページ)を参考にしてください。

③動作時間整定スイッチ

動作時間整定値を切り替えます。整定については、4-1. 時限(動作時間)協調(11 ページ)を参考にしてください。

④試験スイッチ

動作時間整定値以上、下に倒し続けると継電器は動作し、出力接点が動作します。
出力接点は自動復帰方式なので、手を離すと同時に復帰します。
試験スイッチを操作すると出力接点が動作しますので不用意に操作しないでください。

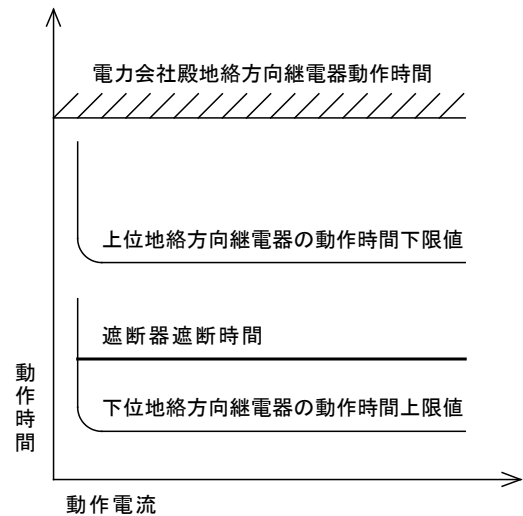
⑤電源表示灯(緑)

制御電源が入ると点灯します。

4. 協 調

4-1. 時限(動作時間)協調

普通高圧需要家殿に於いては自構内の事故を外部に波及させないことが最も重要なこととなります。よって電力会社殿変電所に使用されている地絡方向継電器よりも早く動作させる必要があります。そのため需要家殿側では地絡方向継電器の動作時間と遮断器の遮断時間を含めて電力会社殿の地絡方向継電器より早くしなければなりません。地絡方向継電器の協調は、上位の地絡方向継電器と下位の地絡方向継電器の間に 0.3s あれば、協調は取れるとされています。この 0.3s は、下位の地絡方向継電器の動作時間上限値と遮断器の遮断時間が上位の地絡方向継電器の動作時間下限値を考慮しても、協調が取れるとされている時間です。よって、下位の地絡方向継電器の整定時間を 0.2s とした場合に上位の地絡方向継電器の動作時間整定は 0.5s となります。



4-2. 感度(零相電流、零相電圧)協調

感度協調につきましては、検出に支障がない範囲で最も鋭敏な検出感度とすることが望ましいです。一般的に 6.6kV 電路では動作電流整定値(I_0)を 0.2A、動作電圧整定値(V_0)を 5%と整定しているようです。

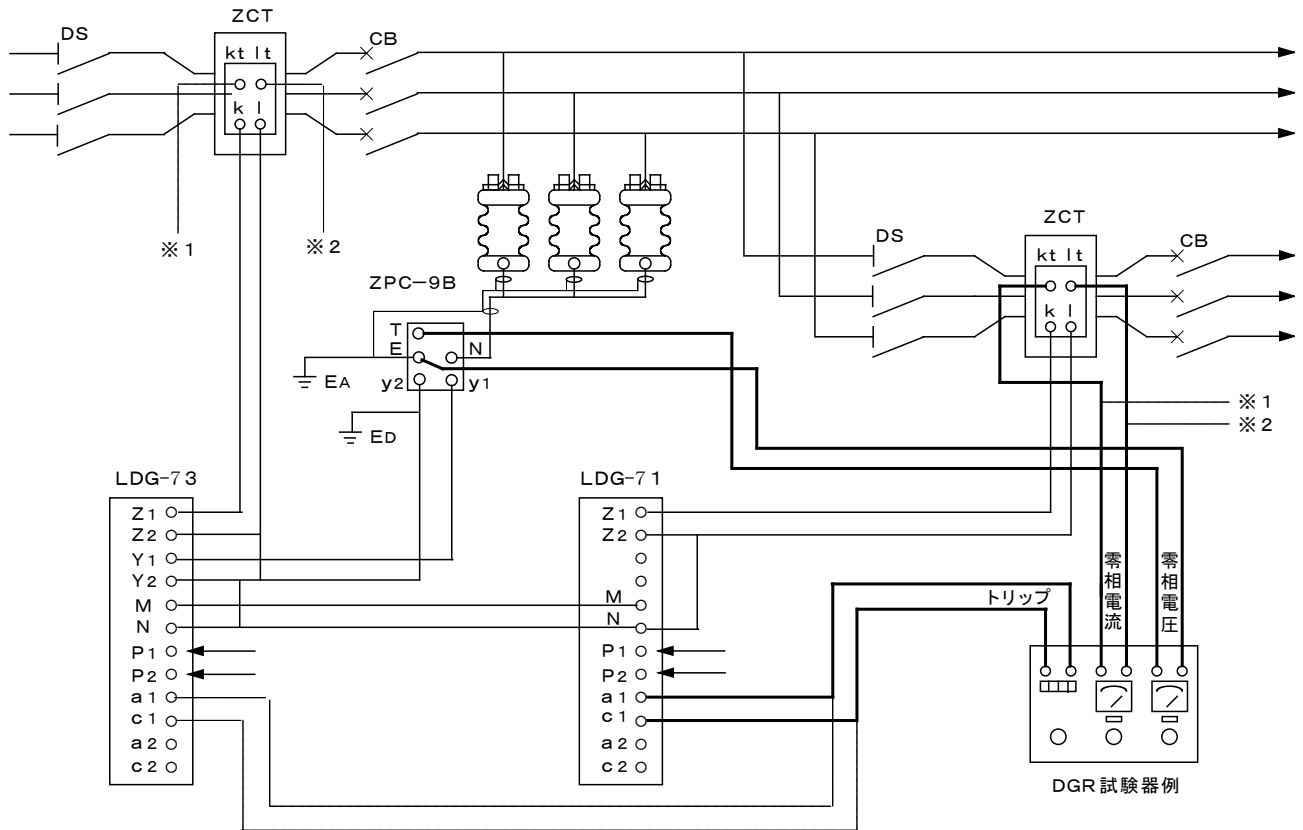
動作感度整定及び動作時間整定は電力会社殿との協議のうえ、決定してください。

5. 試 験

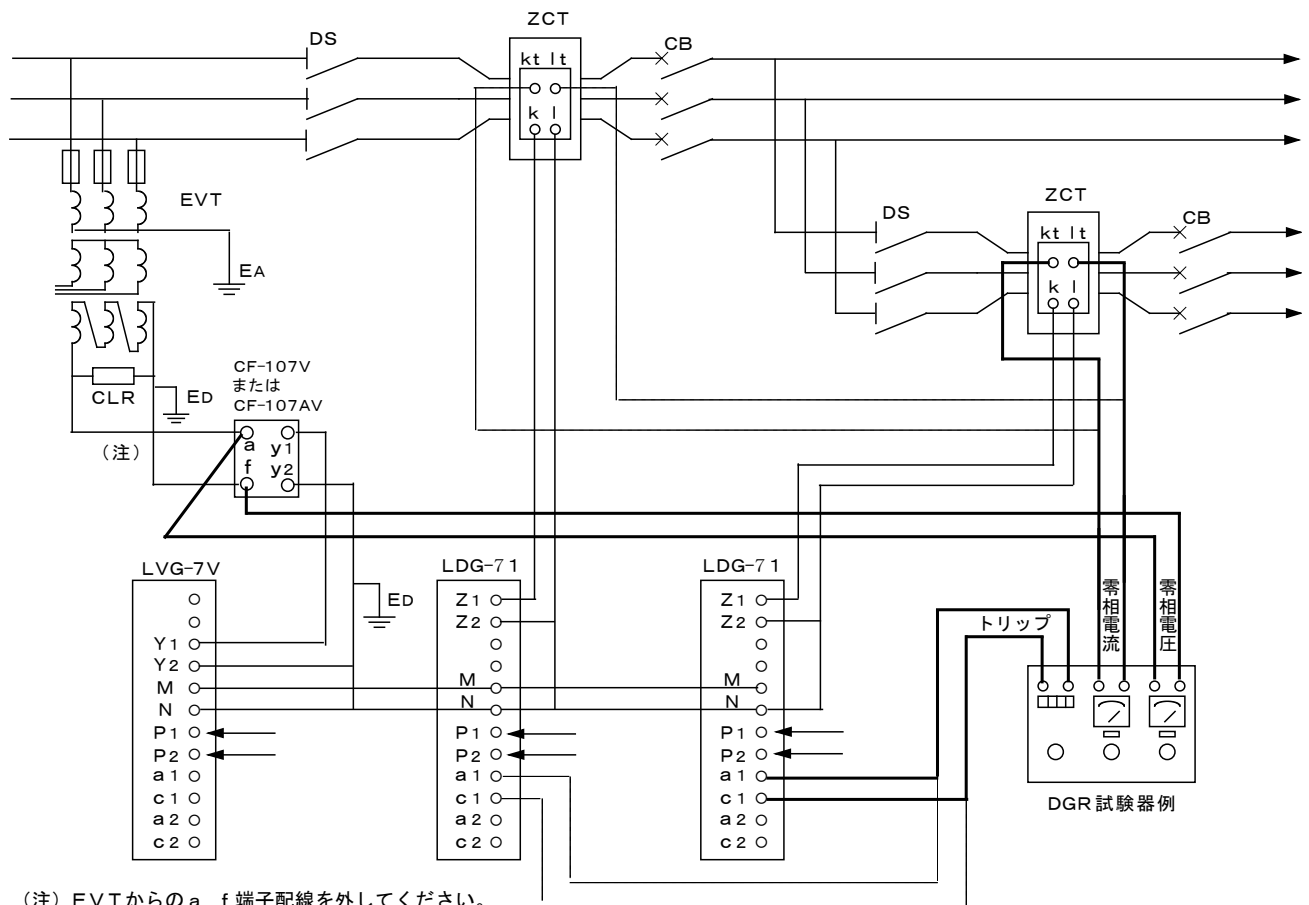
5-1. 試験時の注意事項

- 継電器全体の性能試験は、地絡方向継電装置試験器をご使用ください。
- 零相電圧信号(V_0)、零相電流信号(I_0)とも試験端子（またはこれに相当する部分）に通電してください。
- 継電器の端子(Z1,Z2,Y1,Y2,M,N)に直接試験電圧・試験電流を印加することはできません。直接試験電圧・試験電流がこれらの端子に加わると継電器が焼損する可能性がありますので、ご注意ください。
- ZPC-9B の場合は、T,E 端子に試験電圧を、ZCT の kt,lt 端子に試験電流を流し、 $0^\circ \sim$ 進み 90° の間で測定してください。6. 試験回路例(12～13 ページ)を参考にしてください。
- EVT の場合は、CF-107V または CF-107AV の a,f 端子に試験電圧を、ZCT の kt,lt 端子に試験電流を流し、 $0^\circ \sim$ 進み 90° の間で測定してください。6. 試験回路例(13 ページ)を参考にしてください。
(注) EVT からの a,f 端子配線を外してください。
- 試験器または別電源から継電器の P1,P2 端子に制御電源を供給する場合には、VT からの配線を外してください。DC 電源の機種は、P1 端子が+、P2 端子がーとなります。
- 仮設電源をご使用の場合は試験器の電源電圧にご注意ください。試験器の電源が不安定な場合試験に影響が出ます。
- 現場で耐電圧試験(10350V 10 分間)を実施する場合、特に配線を外す必要はありません。ただし、y1-y2 端子間を短絡してください。
- 単回路及び分岐回路の試験器との結線は、6. 試験回路例(12～13 ページ)を参考にしてください。

6-2. LDG-73, LDG-71 と ZPC-9B の場合



6-3. LVG-7V, LDG-71 と EVT の場合



(注) EVTからの a, f 端子配線を外してください。

7. 良否の判定

継電器の定期点検の結果判定は、1. 仕様(4～5 ページ)の範囲ですが、設置後 2～3 年経過した場合の製品は、日本電機工業会 技術資料 JEM-TR 156『保護継電器の保守・点検指針』によると、下記のようになります。

7-1. 零相電流分と動作時間

零相電流値 整定電流値の±20%

動作時間 0.2s の場合 0.08～0.36s この範囲内であれば『良』となります。

7-2. 零相電圧分

LDG-73 シリーズ、及び LVG-7 シリーズは動作電圧整定値の切り替えがありますので、下表のようになります。この表の数値内であれば規格内であり、判定は『良』となります。

6.6kV 電路での ZPC-9B 及び EVT の場合

単位 (V)

形式及び 動作値 整定電圧値(%)	ZPC-9B			EVT 定格 三次電圧 190V			EVT 定格 三次電圧 110V		
	下限値	基準値	上限値	下限値	基準値	上限値	下限値	基準値	上限値
2.5	71	95	119	3.6	4.75	5.9	2.1	2.75	3.4
5	143	190	238	7.1	9.5	11.9	4.1	5.5	6.9
7.5	214	285	356	10.7	14.25	17.8	6.2	8.25	10.3
10	285	380	475	14.3	19.0	23.8	8.3	11.0	13.8
15	428	570	713	21.4	28.5	35.6	12.4	16.5	20.6

3.3kV 電路での ZPC-9BS の場合

単位 (V)

形式及び 動作値 整定電圧値(%)	ZPC-9BS (3kV 用)		
	下限値	基準値	上限値
5	71	95	119
10	143	190	238
15	214	285	356
20	285	380	475
30	428	570	713

3.3kV 電路用の ZPC-9BS は、3.3kV 電路用の地絡電圧継電器または地絡方向継電器との組み合わせになります。
(形式に S が付きます。)

- 上記表の ZPC の動作値は、試験端子(T,E 端子)使用時、または ZPC 高圧部、三相一括時のものです。
- ZPC を活線で測定するときは、高圧電路の残留電圧と試験電圧との合成で動作しますので、測定値が変わることがあります。

7-3. 動作位相角

LDG-73 シリーズ、及び LDG-71 シリーズの位相角は零相電圧を基準の 0° として、零相電流の位相を変化させて測定します。

動作位相許容範囲 進み 130° ±25°
遅れ 35° ±25°

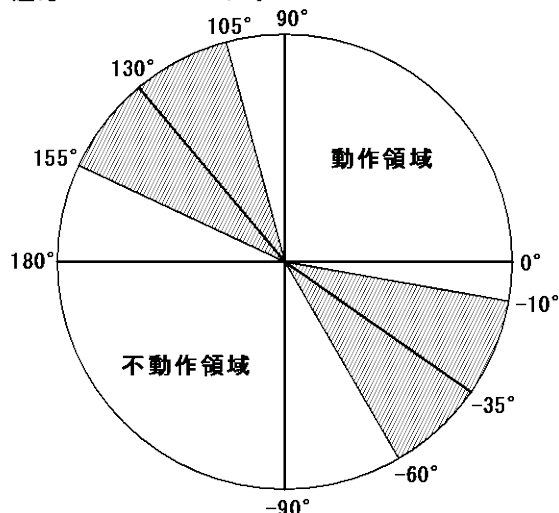
○右図の動作位相図を参考にしてください。

但し、下記(注)の考えで定期試験では実的に次の通りで支障ありません。

進み 0° ～ 90° で動作
遅れ 90° ～180° で不動作

(注) 日本電機工業会 技術資料 JEM-TR 156『保護継電器の保守・点検指針』では定期試験は竣工時の特性に比べて、継電器の機能が満足されれば誤差の範囲はやや広くなっても良いと考えています。

適応：LDG-71・73シリーズ



8. 更新推奨時期

日本電機工業会では、使用開始後 15 年とされています。この値は、製造者の保証値ではありません。
日常点検及び定期点検の実施を前提として、これを目安に更新することを推奨するとなっています。

9. 継電器の動作

9-1. LDG が動作した時

LDG が動作した時には遮断器(CB など)もトリップしています。

遮断器以降の高压電路の絶縁抵抗を測定し事故点を切離してから慎重に投入してください。

初期の地絡事故では、メガーでは電圧が低く判明しないこともあり、また、遮断によってアークが停止すると、絶縁が回復してしまうことがあります。従って 1 回トリップし、再投入が可能であっても継電器の不審な動作とは限りませんから、高压各部の厳重な監視が大切です。今までの例でもこのような動作を繰り返し、3 ヶ月後にやっとクラックであると判明したことがあります。

9-2. 雷撃について

雷電流は高周波交流として高压電路から大地に流れます。従って地絡電流と区別することは困難で、LDG でも不必要動作をすることもあります。特に直撃でなく誘導雷の場合には、これが構内に侵入しても特に被害はない場合が多く、LDG だけが不要動作をした状態となることもありますが、LDG の故障ではありません。

9-3. ZCT の負荷側の EVT または GT について

ZCT の負荷側に EVT、または GT が設置してありますと不要動作することがあります。

9-4. 動作電圧表示灯(赤)が点灯した時

動作電圧表示灯(赤)が点灯した場合は、下記の要因が考えられます。

- 電源側の地絡事故。
- 電力会社配電線路にV結線の電圧調整器がある場合、三相の対地電圧にアンバランスが生じて見掛け上の零相電圧が生じて動作電圧表示灯(赤)が点灯する場合があります。
- 電路で 1 相が欠相している場合、または三相電路で単相負荷ケーブルが長い場合に対地のインピーダンスのアンバランスが生じ、見掛け上の零相電圧が生じて動作電圧表示灯(赤)が点灯する場合があります。
- M,N 端子が何等かの原因で短絡、または配線の極性違いがありますと点灯します。
- LDG または LVG 本体の故障により動作電圧表示灯(赤)が点灯する場合があります。

動作電圧表示灯(赤)の点灯は、構内の事故だけでなく、配電系全体に関係しますので、対地電圧の不平衡、電源側の地絡事故時にも点灯する可能性があります。

動作電圧表示灯(赤)の点灯が継続していた場合、動作電圧表示灯(赤)が消えるかどうか、LDG-73 シリーズ、または LVG シリーズの動作電圧整定スイッチを切り替えて様子を見てください。

9-5. 動作電流表示灯(赤)が点灯した時

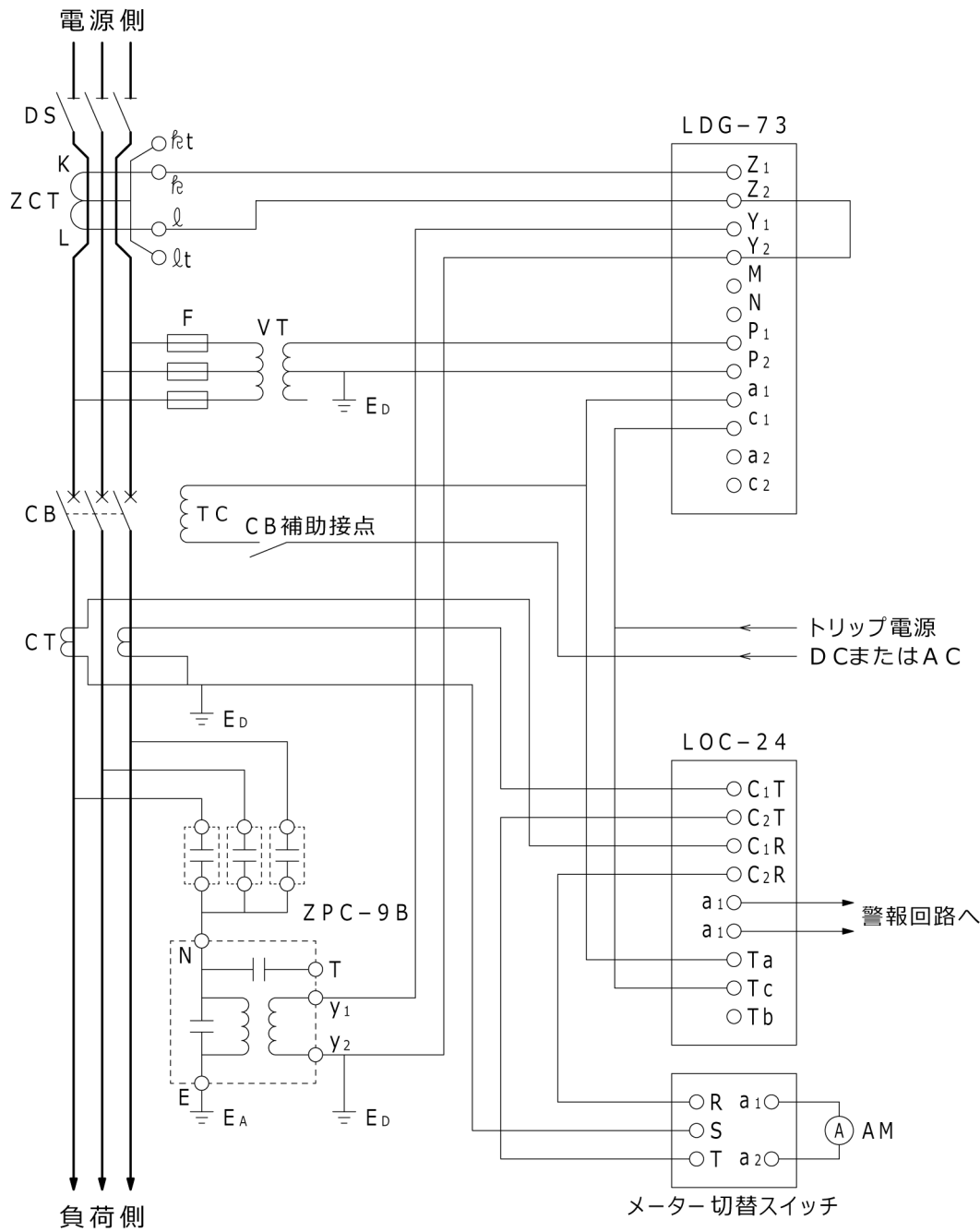
動作電流表示灯(赤)が点灯した場合は、下記の要因が考えられます。

- ケーブルシールド層の両端接地
ZCT にケーブルを貫通して使用した時、ZCT のK側及びL側両方でケーブルのシールド層が接地されると、2 点に電位差が生じた場合、ケーブルのシールド層に電流が流れ動作電流表示灯(赤)が点灯する場合があります。
- ZCT の定格電流より大きな負荷電流が流れると残留電流が発生して動作電流表示灯(赤)が点灯する場合があります。
- ZCT の二次配線に電磁誘導や静電誘導などを受けていると、ZCT 二次配線間に起電力が生じ、その電圧を継電器が検出して動作電流表示灯(赤)が点灯する場合があります。
- LDG 本体の故障により動作電流表示灯(赤)が点灯する可能性があります。
- 信号線の多点接地(y2 以外の接地)

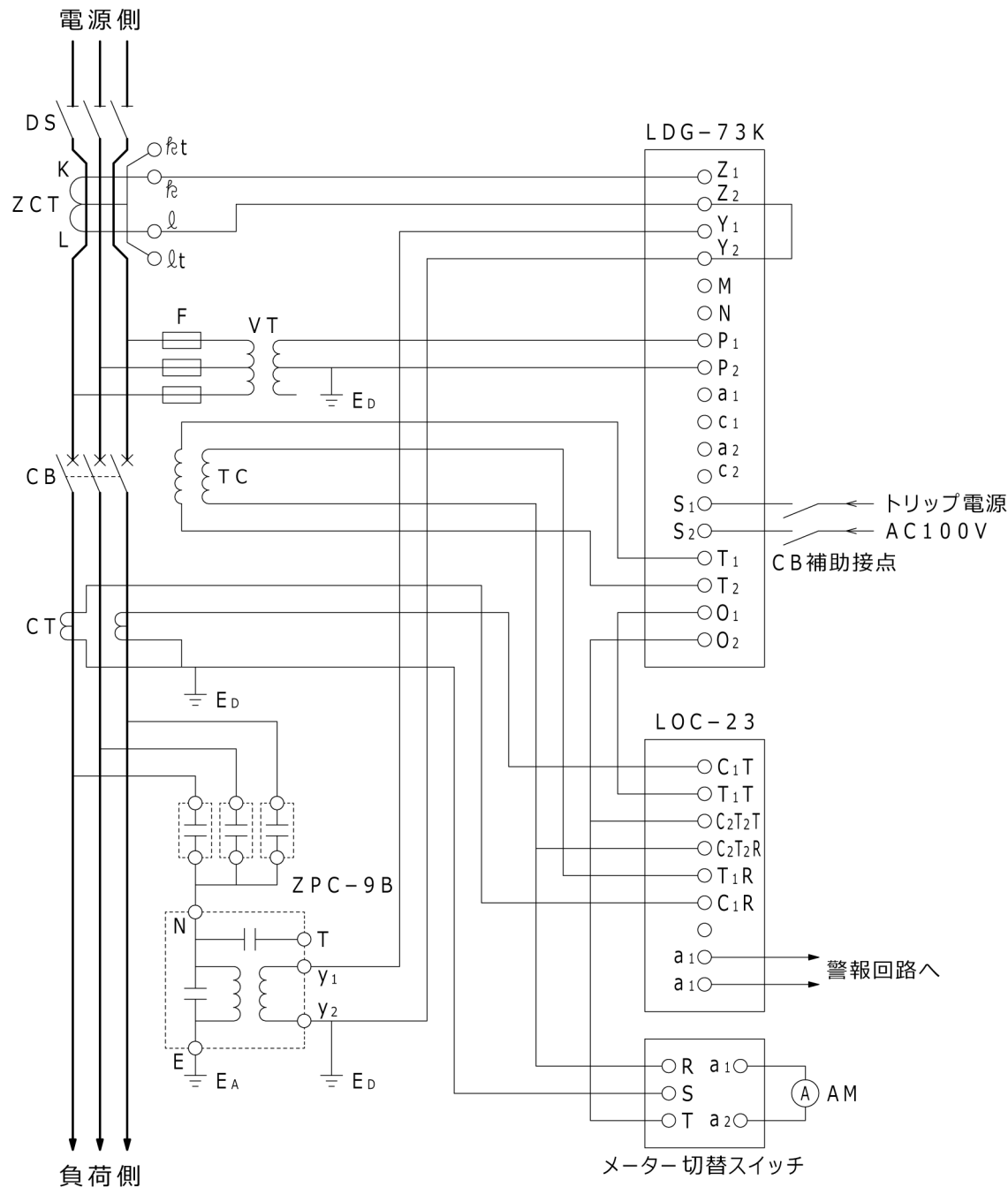
動作電流表示灯(赤)が点灯していても、構内に事故があるとは限りませんが、ご注意ください。

10. 外部接続図例

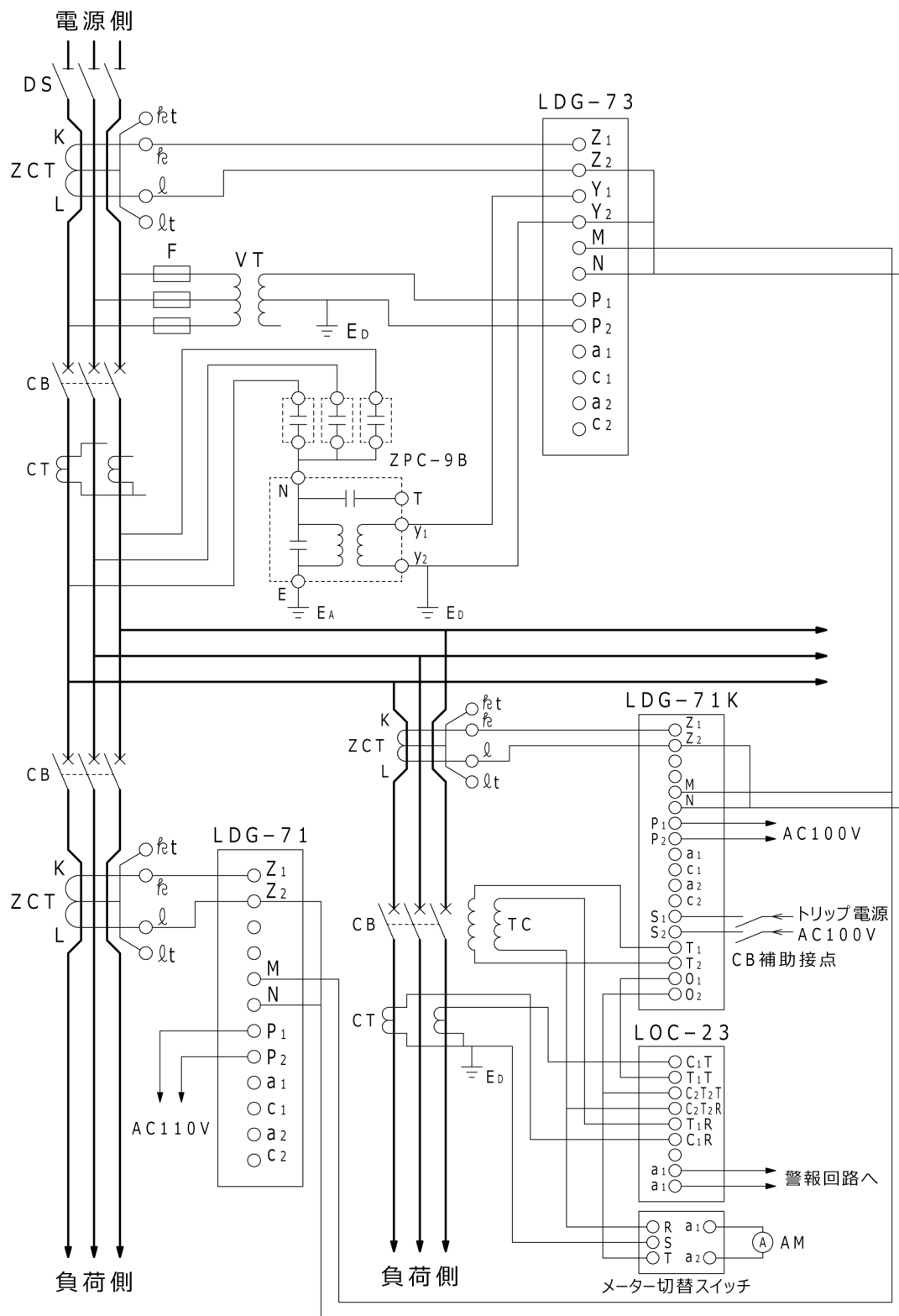
10-1. 電圧引き外し (LDG-73 と ZPC-9B の場合)



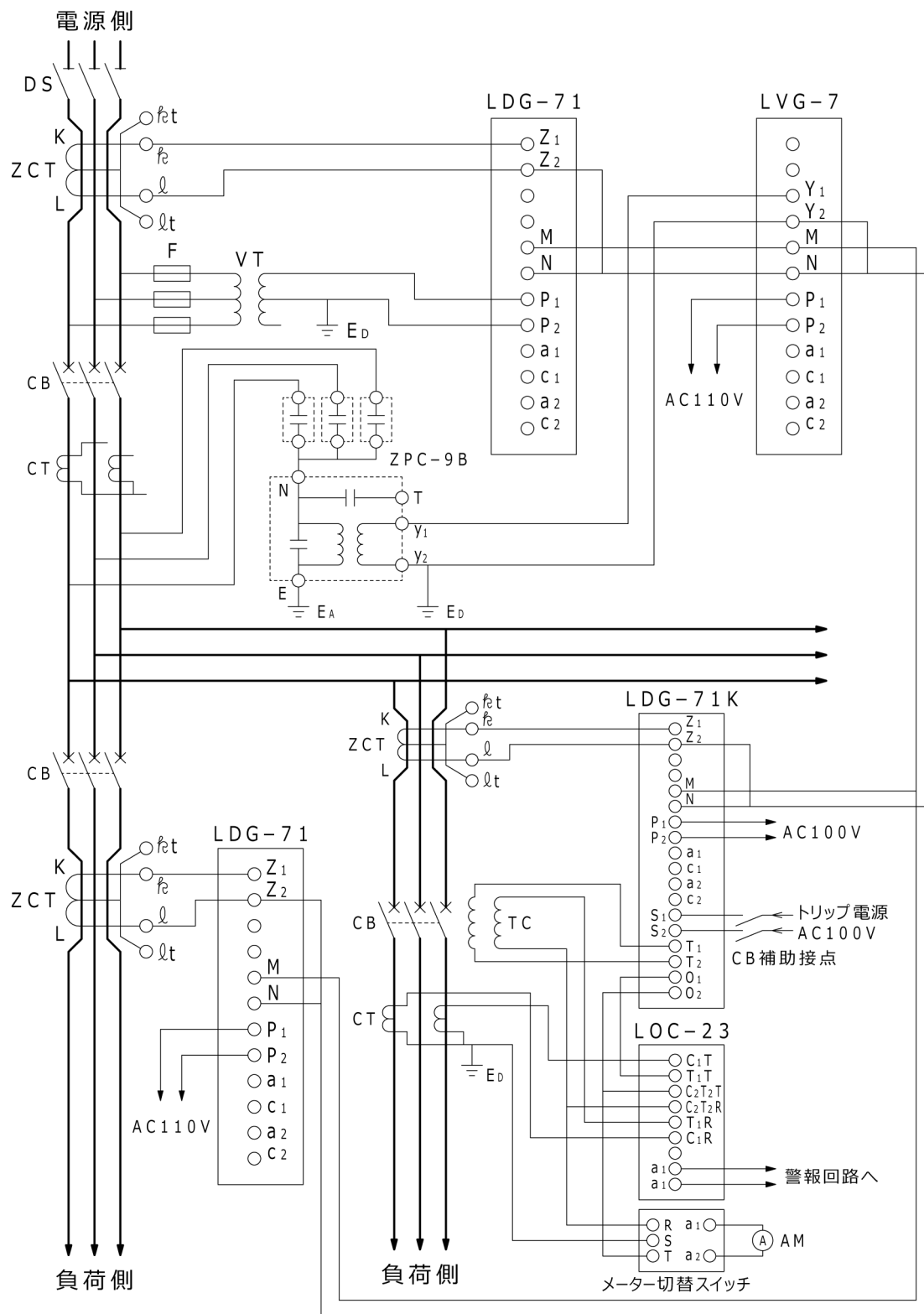
10-2. 電流引き外し（LDG-73KとZPC-9Bの場合）



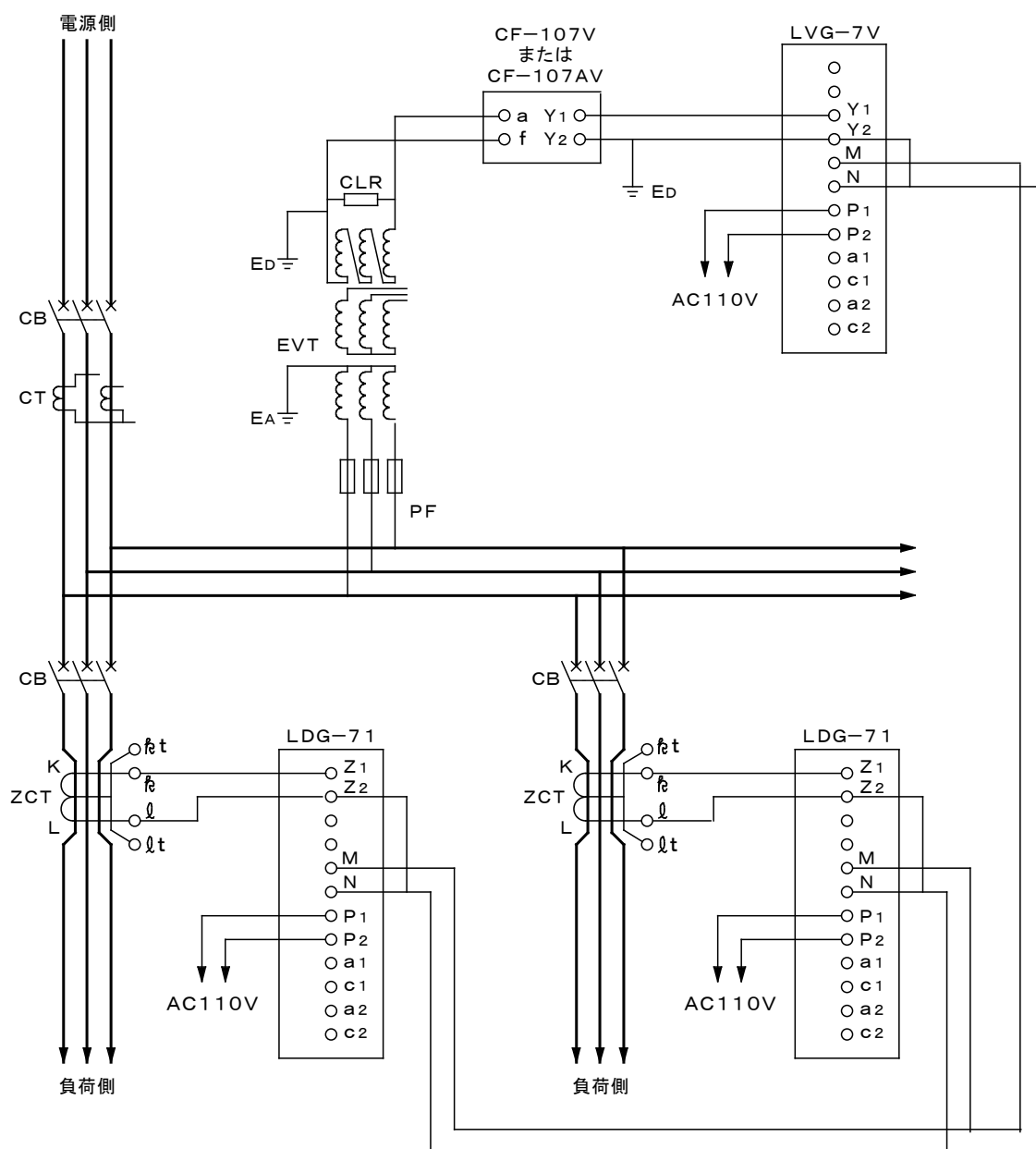
10-3. 多分岐回路 (LDG-73, LDG-71, LDG-71K と ZPC-9B の場合)



10-4. 多分岐回路 (LVG-7, LDG-71, LDG-71KとZPC-9Bの場合)



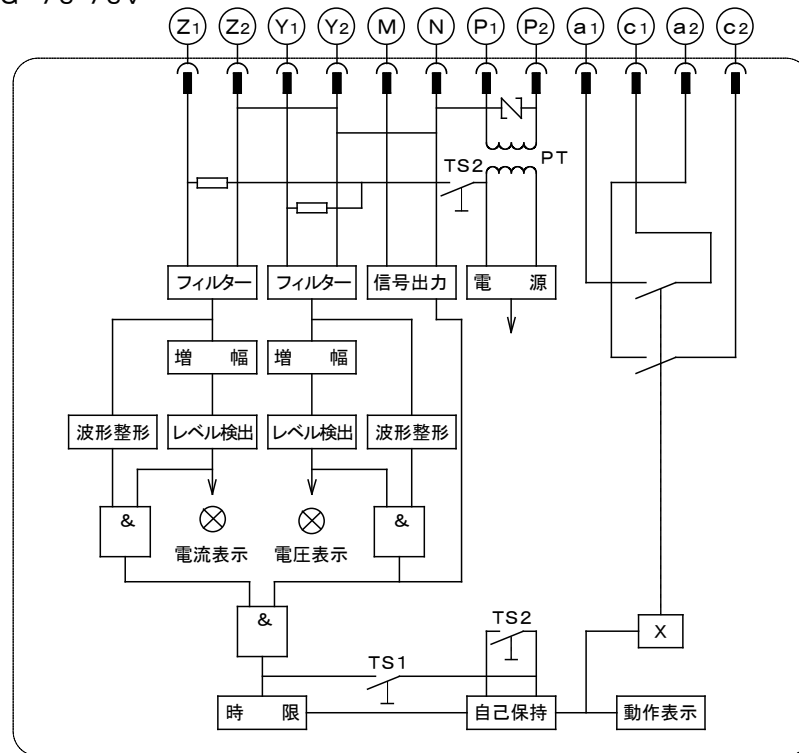
10-5. 特別高圧受電二次側（LVG-7V, LDG-71 と CF-107V または CF-107AV の場合）



11. ブロック図

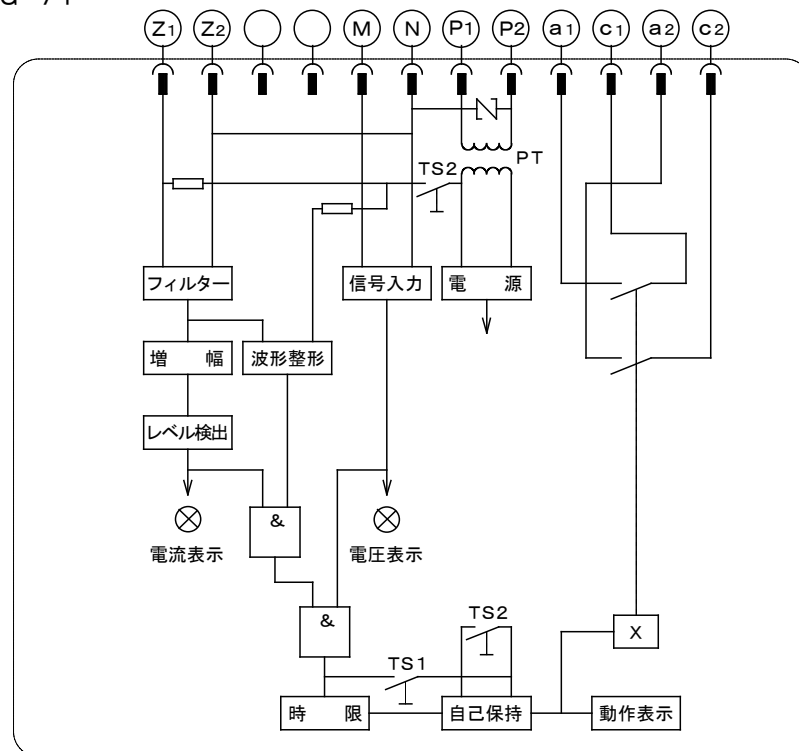
11-1. LDG-73・73V, LDG-71

LDG-73・73V



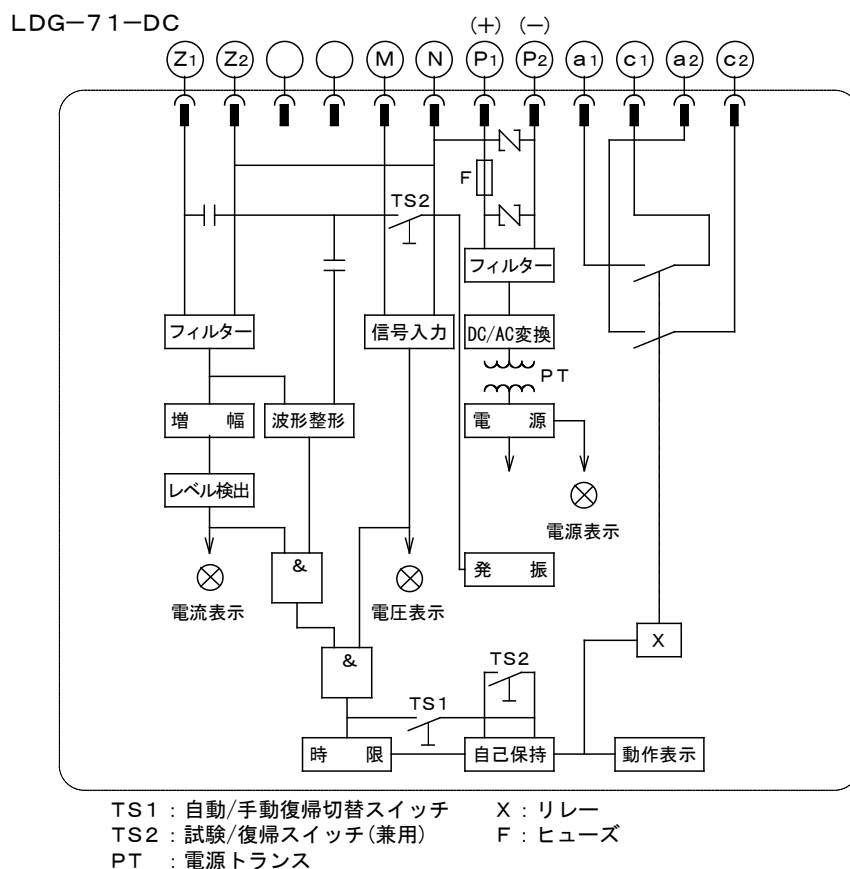
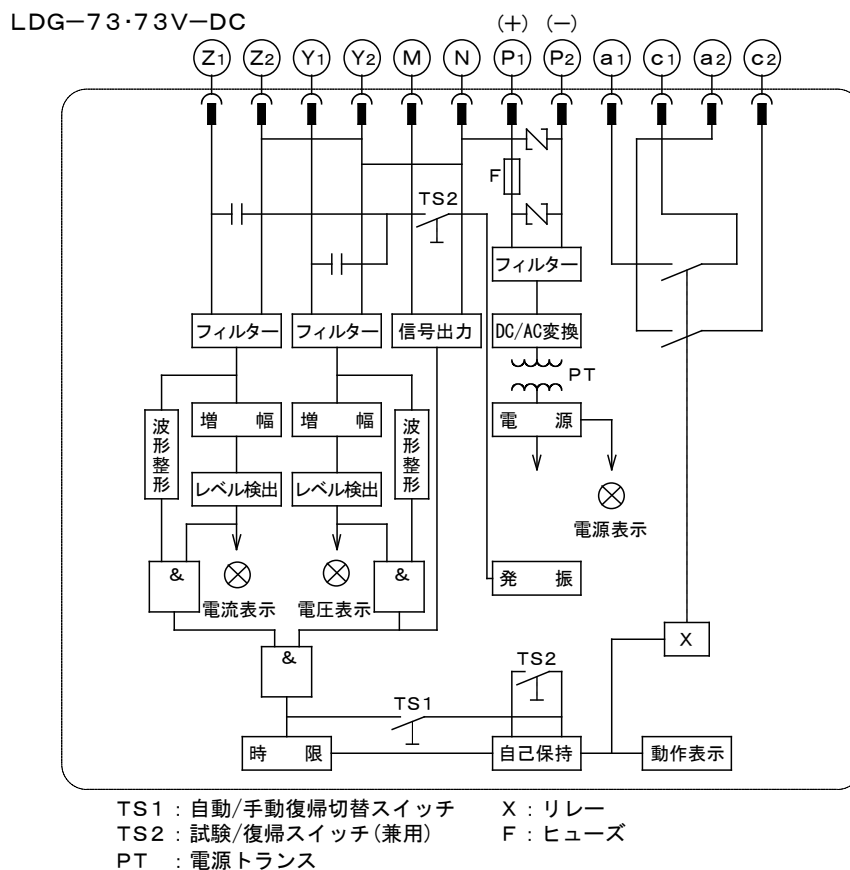
TS1 : 自動/手動復帰切替スイッチ PT : 電源トランス
TS2 : 試験/復帰スイッチ (兼用) X : リレー

LDG-71



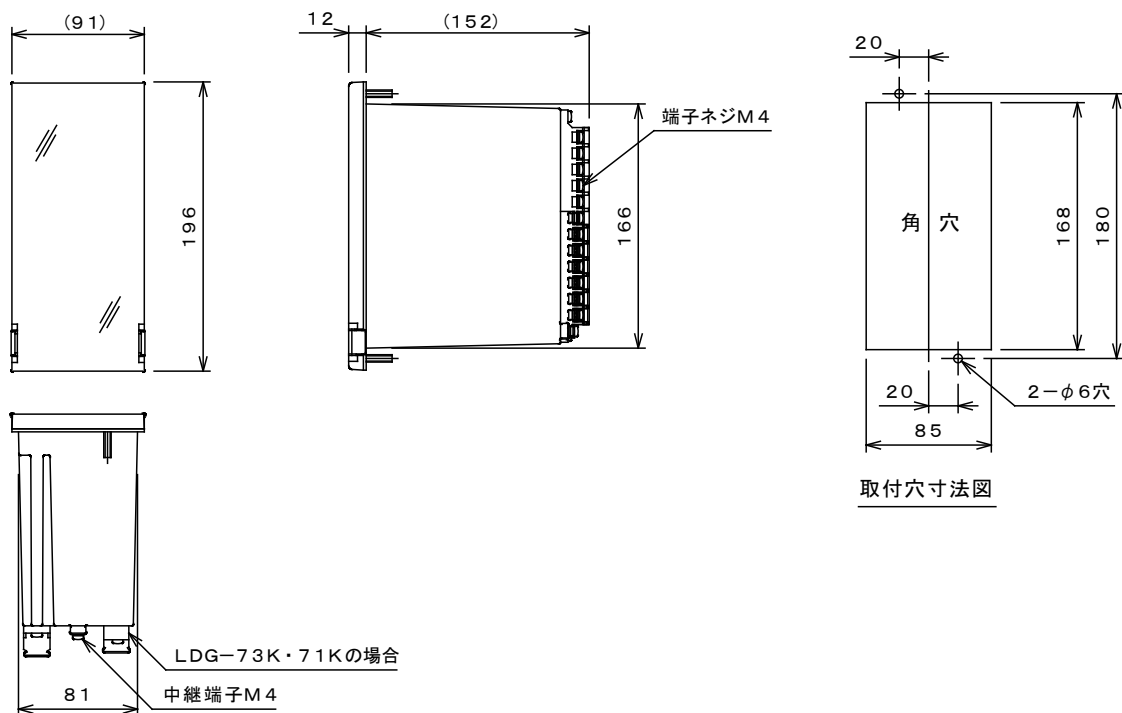
TS1 : 自動/手動復帰切替スイッチ PT : 電源トランス
TS2 : 試験/復帰スイッチ (兼用) X : リレー

11-3. LDG-73・73V-DC, LDG-71-DC



12. 外形図

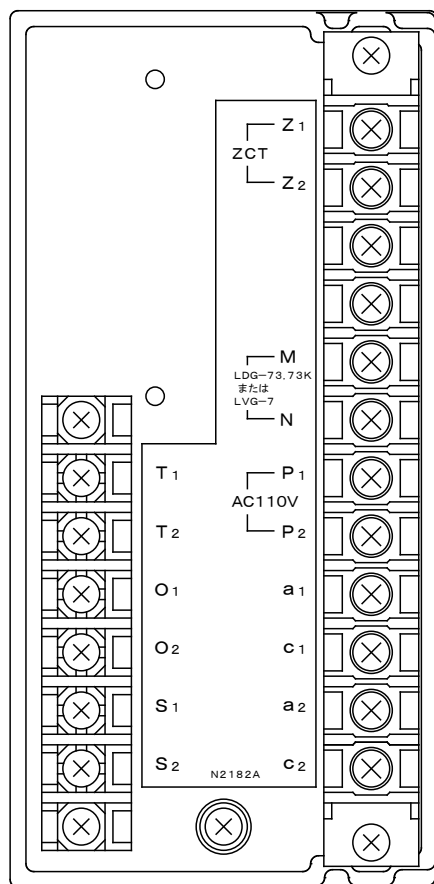
LDG-73 シリーズ LDG-71 シリーズ LVG-7 シリーズ



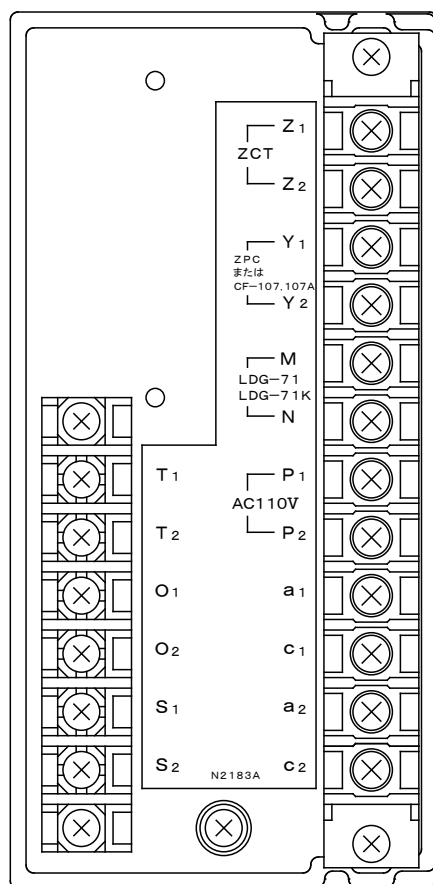
取付穴寸法図

13. 裏面端子配列図 (LDG-71K, LDG-73K)

LDG-71K



LDG-73K





光商工株式会社

本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座 7-4-14(光ビル)	TEL 03-3573-1362	FAX 03-3572-0149
大 阪 営 業 所	〒530-0047	大阪市北区西天満 6-8-7(DKビル)	TEL 06-6364-7881	FAX 06-6365-8936
名 古 屋 営 業 所	〒460-0008	名古屋市中区栄 4-3-26(昭和ビル)	TEL 052-241-9421	FAX 052-251-9228
福 岡 営 業 所	〒810-0001	福岡市中央区天神 4-4-24(新光ビル)	TEL 092-781-0771	FAX 092-714-0852
茨 城 工 場	〒306-0204	茨城県古河市下大野 2000	TEL 0280-92-0355	FAX 0280-92-3709
川崎流通センター	〒216-0005	川崎市宮前区土橋 6-1-3	TEL 044-866-9110	FAX 044-877-7188

お問い合わせ・資料のご請求は………本社継電器営業部・営業所継電器課へ。
フリーダイヤルによる技術的なお問い合わせ………0120-58-7750（技術グループ）
土、日、祝日、当社休業日を除く 9:00～11:45 / 12:45～17:00 携帯電話・PHS などではご利用いただけません。
電話がかかりにくい場合もございますので、この場合は FAX をご利用いただきますようお願い申し上げます。
FAX による技術的なお問い合わせ………0280-92-6706（技術グループ）

- お断りなしに、外観、仕様などの一部を変更することがありますので、ご了承ください。
尚、最新の情報はホームページにてご案内致しております。 URL <https://www.hikari-gr.co.jp>